

別表1 令和4年度 拠点間連携共同研究（重点推進研究） 一覧表

| 課題番号 カテゴリー名 研究課題名 | 代表者 | 研 究 内 容 |
|--|------------------------------------|---|
| 2022-K-1-1 重点推進研究 （総括型） 「巨大地震のリスク評価の不確実性に関するパラダイム構築の推進」 | 加藤尚之 （東大地震研） 松島信一 （京大防災研） | 重点推進研究（総括型）では、巨大地震発生時の災害リスク評価の不確実性を明確にすることを目標とします。そのためには、（1）まず各研究分野における知見・モデルの不確実性を定量化し、（2）それらの不確実性を考慮できるリスク評価の枠組みを構築した上で、（3）どの不確実性要因が全体のリスク評価の不確実性に寄与しているかを明らかにすることが必要です。この基本的な評価の枠組みを構築することを目標として、（1）～（3）について検討し、現時点でのリスク評価の不確実性を評価して公に共有するための研究を推進します。 |
| 2022-K-1-2-3 重点推進研究 （特定型） （その3） 「不確実性を考慮した浅部地盤の非線形応答評価手法の検討」 | 上田恭平 （京大防災研） | 巨大地震時における社会インフラ施設の災害リスクを評価するためには、浅部地盤（工学的基盤から地表まで）の非線形応答を適切に評価する必要があります。この際、土の複雑な応力ひずみ関係を表現可能な構成モデルを組み込んだ数値解析がよく用いられますが、妥当性検証の際に各種モデル化の不確かさが考慮されることは多くありません。本研究では、ボーリング調査や室内土質試験のデータを活用し、種々の不確実性を考慮した地盤の非線形応答評価手法について検討します。 |
| 2022-K-1-2-5 重点推進研究 （特定型） （その5） 「即時建物被害予測技術の高度化」 | 楠 浩一 （東大地震研） | 巨大地震発生時に、実際に建物や構造物の被害を軽減するためには、事前に建物や構造物の被害を予測し、都市の被害リスクを把握しておく必要があります。また、実際に巨大地震発生時には、いかに迅速に建物・構造物の被害状況を把握するかが重要になります。そこで本研究では、建物や構造物をより高密度・高精度で被害状況を予測する方法の研究を行います。また、地震発生直後に、建物や構造物の早期被害状況把握手法についても、研究を行います。 |

| | | |
|--|-------------------------|--|
| <p>2022-K-1-2-6 重点推進研究 (特定型) (その6)</p> <p>「地震および豪雨による斜面災害発生個所の事前予測方法の統合」</p> | <p>齊藤隆志 (京大防災研)</p> | <p>地震による土砂災害リスクを評価するうえで、斜面に存在する不安定土塊の位置とその崩壊到達範囲を事前に把握することが重要です。詳細数値地図情報を用い、既往の地震による土砂災害事例から、最初に移動を開始する土塊位置の地形的特徴がわかって来ました。この地形の特徴は、豪雨による土砂災害の発生の初期過程で移動を始める地形的特徴と類似していることもわかってきました。地震では断層運動と地表振動、豪雨では水の集中機構などの土塊移動を開始させる外力の違いが土砂災害発生に及ぼす機構の解明を総合的に行います。</p> |
| <p>2022-K-1-2-7 重点推進研究 (特定型) (その7)</p> <p>「巨大地震によるマルチハザードリスク評価手法に関する検討」</p> | <p>松島信一 (京大防災研)</p> | <p>南海トラフ沿いで発生する巨大地震により引き起こされる、強震動、津波、地すべり、地盤変状などのマルチハザードによって、多様な災害が引き起こされることが想定されます。本研究では、これら多様な災害を考慮し、統一的に扱うための課題を洗い出し、巨大地震によるマルチハザードリスク評価を実現する手法に関する検討を行います。</p> |